

第4回新潟性感染症（STD）研究会

日時 平成14年9月27日（金）
午後6時30分～
会場 ホテルイタリア軒 3階
「サンマルコ」

一般講演

1 若年妊娠婦人におけるSTD感染実態に関する多施設共同研究

高桑 好一・石井 桂介・藤田 和之
田村 正毅・田中 憲一

新潟大学医学部産科婦人科学教室
平成13年度厚生労働省エイズ対策研究
事業「妊産婦のSTD及びHIV陽性率と
妊婦STD及びHIVの出生児に与える影
響に関する研究」研究班

性感染症（STD）は性成熟期にある女性に多く認められ、妊婦において、これらの感染症が多発することが推察される。そこで、本邦、大都市部（関東地区、中京地区、関西地区）の妊娠婦人における後天性免疫不全症候群（HIV）、クラミジア、淋菌、ヒトパピローマウイルス（HPV）などのSTDの蔓延の程度、とくに若年妊娠婦人における蔓延の程度を明らかとするため、多施設共同により、30才未満の妊娠婦人について各種検査を実施した。HIV抗体については陽性例は認められなかった。全施設におけるクラミジア抗原陽性症例は4.3%、淋菌の陽性症例は0.5%であった。また、HPVについては21.0%で陽性であった。年齢階層別では、いずれのSTDも10才台および、20才台前半の年齢階層において、20才台後半の年齢階層に比較し有意に高率であった。このことから、若年婦人において各種STDが蔓延していることが明らかとなり、HIVの蔓延に対し対策を講ずることの重要性が示唆された。

2 巨大尖圭コンジローマの1例

池滝 知・野本 重敏・藤原 浩
橘 敏明・山田 聡・伊藤 雅章
新潟大学大学院医歯学総合研究科
皮膚科学分野

55歳男。初診の3年前より、肛囲に疣状の腫瘤が出現。4カ月前より急速に増大。平成12年5月10日当科初診時、肛囲に9×7cmのカリフラワー状に隆起した弾性軟の腫瘤を認めた。周囲に疣状の結節、膿瘍を伴う。組織学的に著明な乳頭腫症と空胞化細胞を認めた。腫瘍細胞よりHPV DNAを検出、免疫組織学的に抗HPV抗体陽性細胞を認めた。腫瘍切除術及びmesh skin graftを施行。排便機能は保たれ、拘縮なし。

特別講演 I

「ヘルペスウイルス感染症」

大阪大学大学院医学系研究科微生物講座

山西 弘一

特別講演 II

「性感染症—最近の動向—」

東京慈恵会医科大学皮膚科

新村 真人